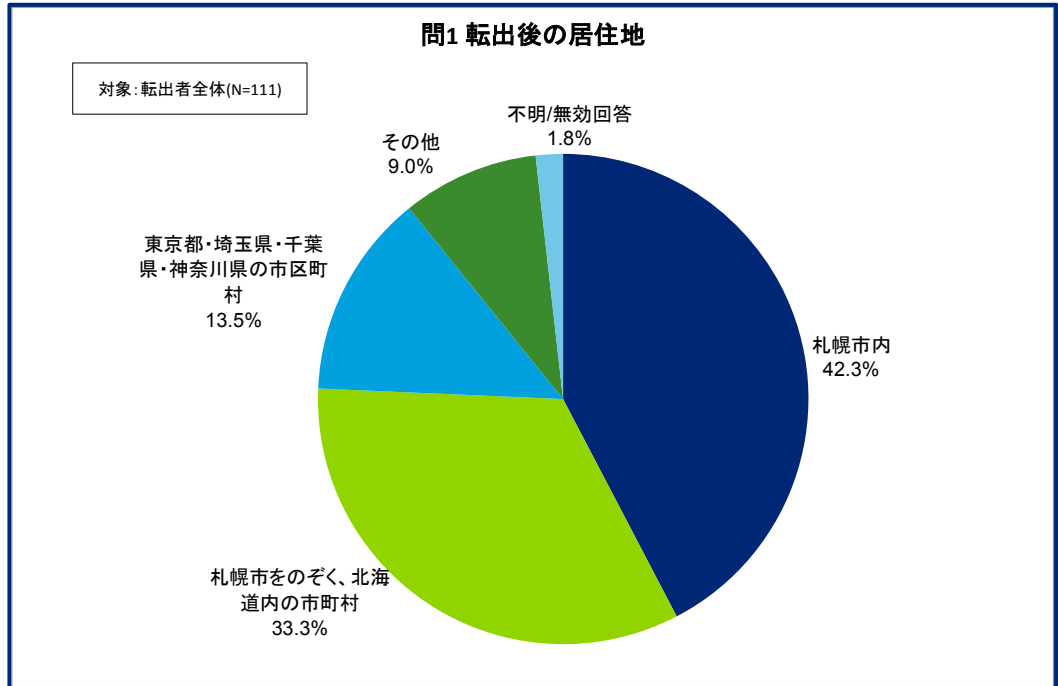


ア調査結果

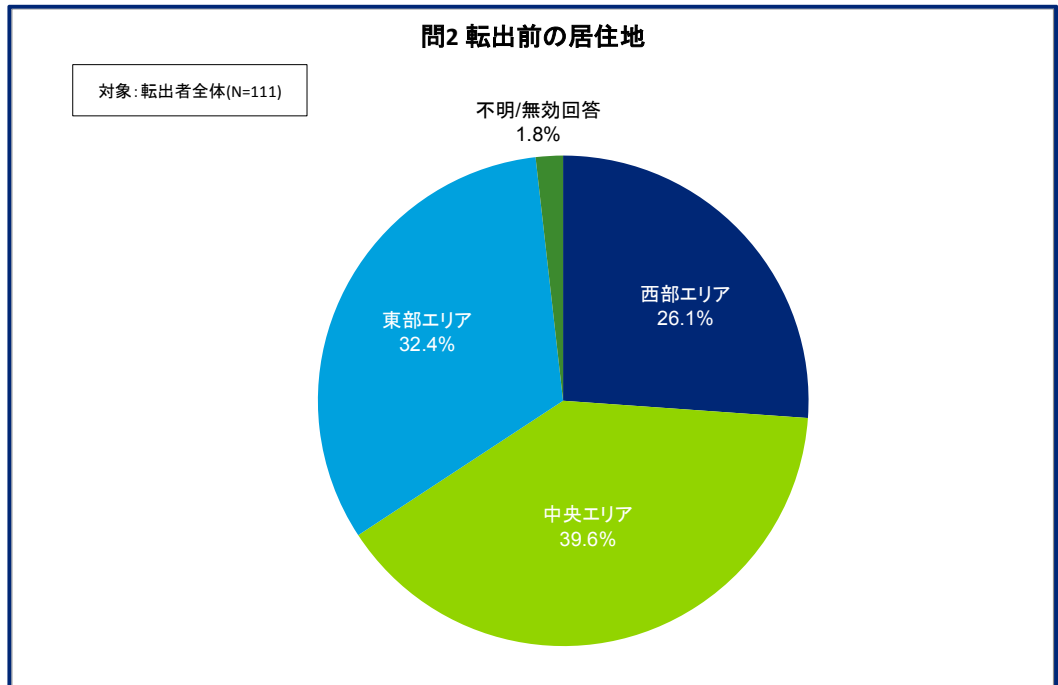
(7) 転出後の居住区（問1）

- 転出後の居住区は、「札幌市内」が42.3%ともっとも多く、次点が「札幌市をのぞく北海道内の市町村」が33.3%となっており、道内が75.6%を占めている。



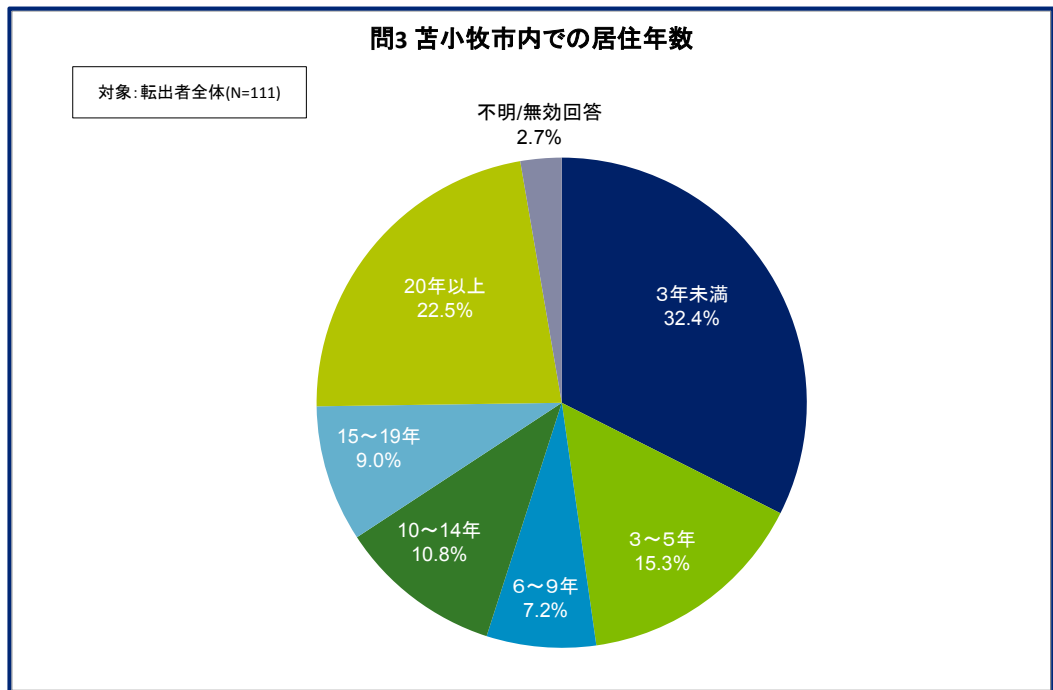
(4) 転出前の居住区（問2）

- 転居前の苫小牧市での居住区は、「中央エリア」が39.6%ともっとも多く、「東部エリア」（32.4%）、「西部エリア」（26.1%）が続いている。



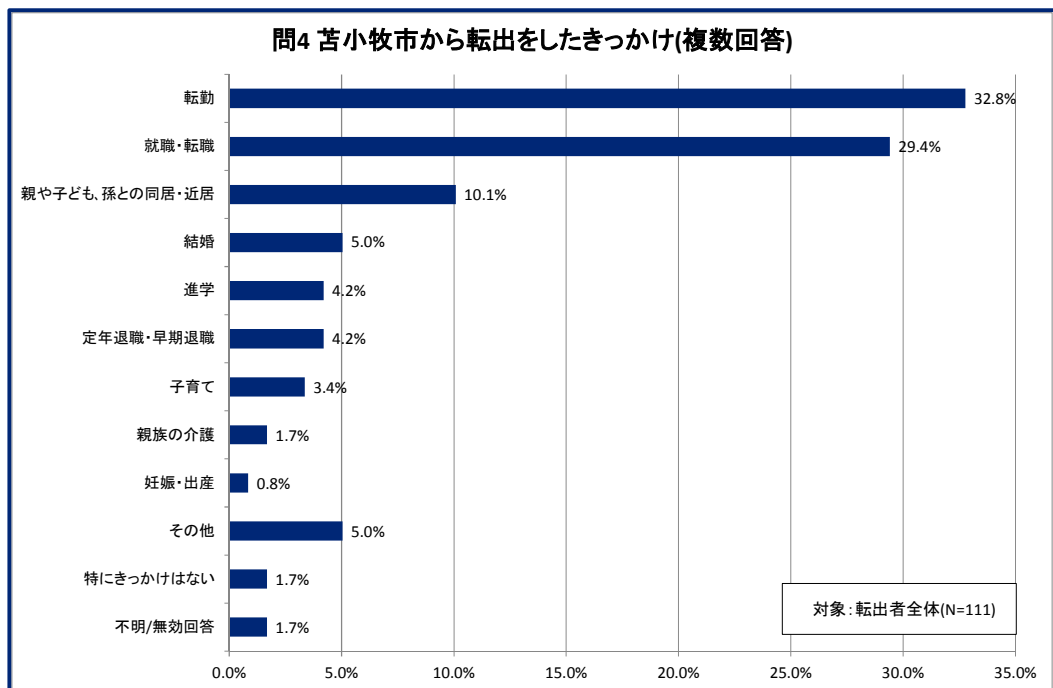
(ウ) 苫小牧市内での居住年数（問3）

- 転居前の苫小牧市での居住年数は、「3年未満」が32.4%と多い一方、「20年以上」も22.5%と多くなっている。

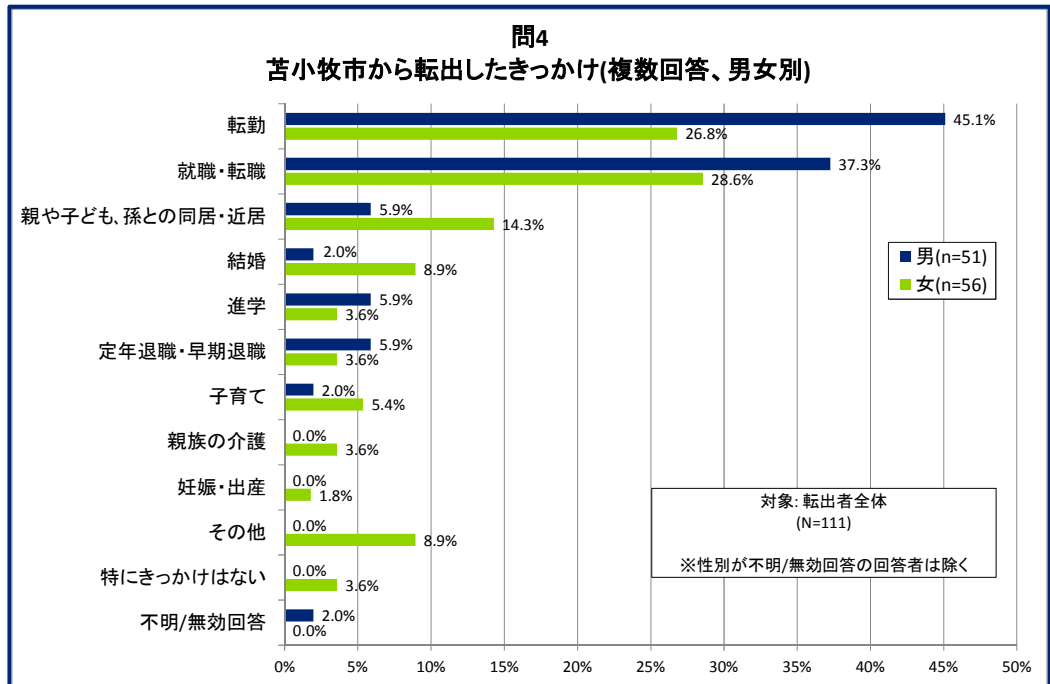


(I) 転出したきっかけ (問4)

- ・ 苫小牧市から転出したきっかけをみると、「転勤」が 32.8%と最も多く、「就職・転職」が 29.4%となっており、仕事関係が主要な要因となっている。

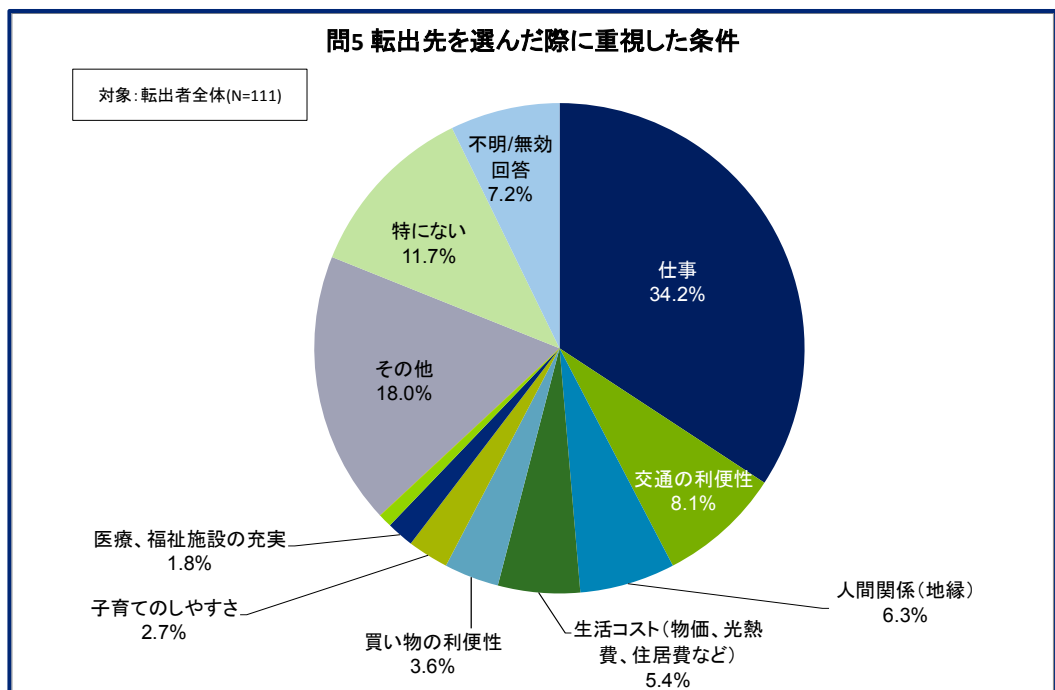


- また転出したきっかけを男女別に見ると、男性は「転勤」や「就職・転職」など就業に関する理由が多い一方、女性は「親や子ども、孫との同居・近居」や「結婚」など、家族・親族との生活に関する理由が多い。



(オ) 転出先を選んだ際に重視した条件 (問5)

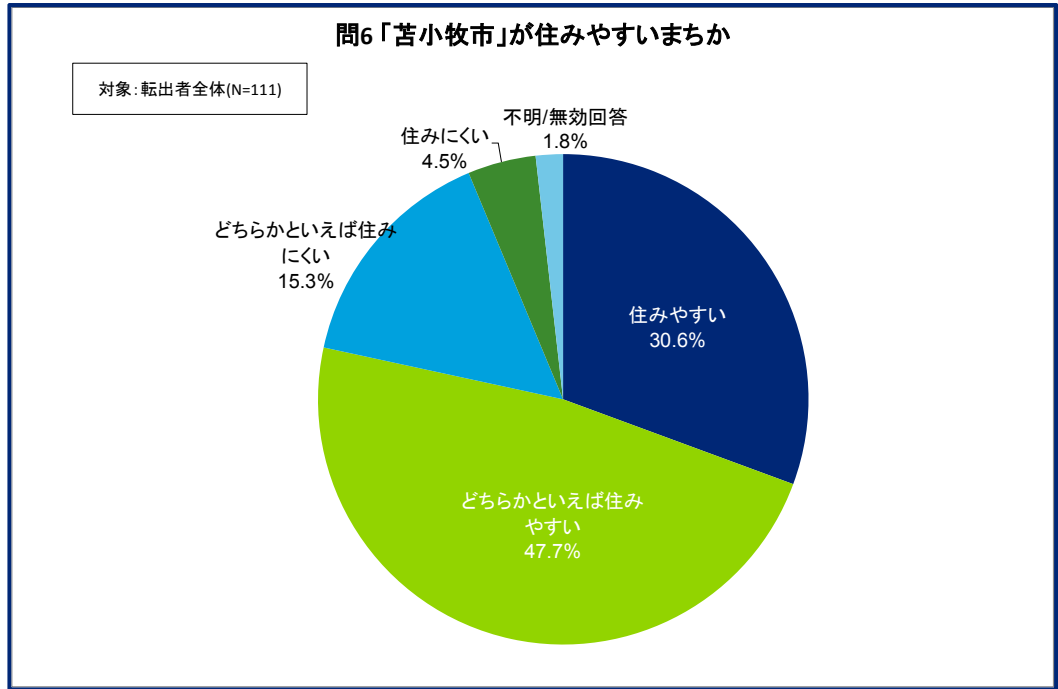
- 転出先を選んだ際にもっとも重視した条件をきくと、「仕事」(34.2%)との回答が圧倒的に多く、その他の選択肢は10%に満たない。



(カ) 苫小牧市の住みやすさ及びその理由

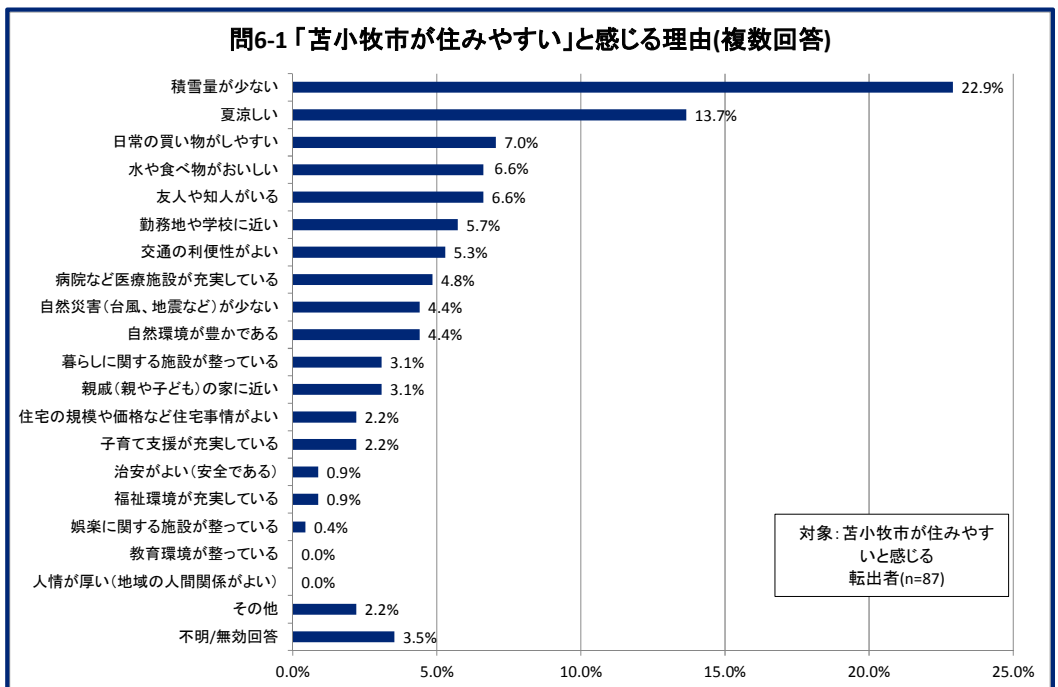
① 苫小牧市の住みやすさ (問6)

- ・ 苫小牧市は「住みやすい」と回答した者は30.6%であり、「どちらかというに住みやすい」と回答した者47.7%を加えると、78.3%の転出者が「住みやすい」と回答している。
- ・ 一方、「住みにくい」と回答した者は4.5%、「どちらかといえば住みにくい」と回答した者を加えると19.8%となる。



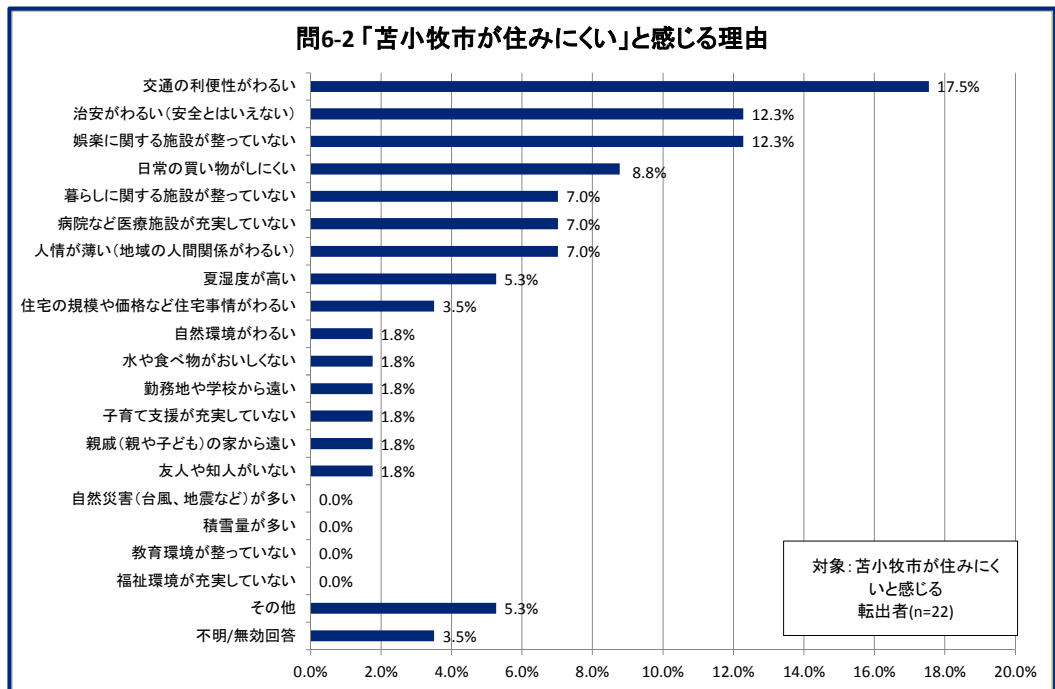
② 住みやすさの理由 (問6-1)

- ・ 苫小牧市は住みやすいと回答した者に、住みやすい理由をきくと、「積雪量が少ない」(22.9%)との回答と、「夏涼しい」(13.7%)との回答が多くなっている。



③ 住みにくい理由（問 6-2）

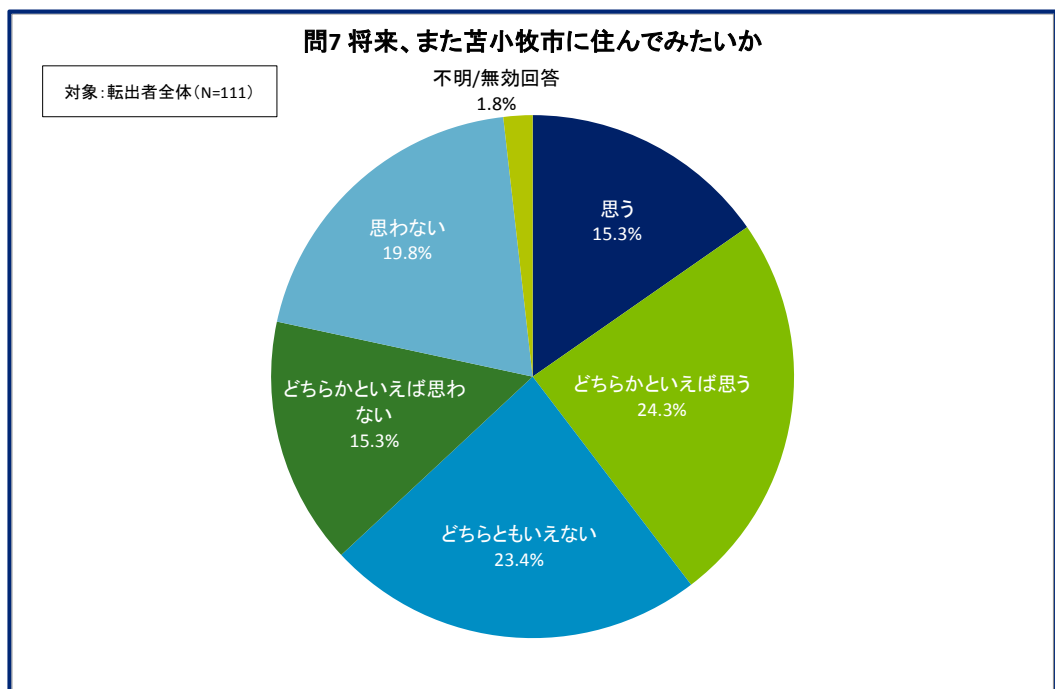
- 一方、苫小牧市は住みにくいと回答した者にその理由をきくと、「交通の利便性が悪い」（17.5%）、「治安がわるい」（12.3%）、「娯楽に関する施設が整っていない」（12.3%）が多く挙げられた。



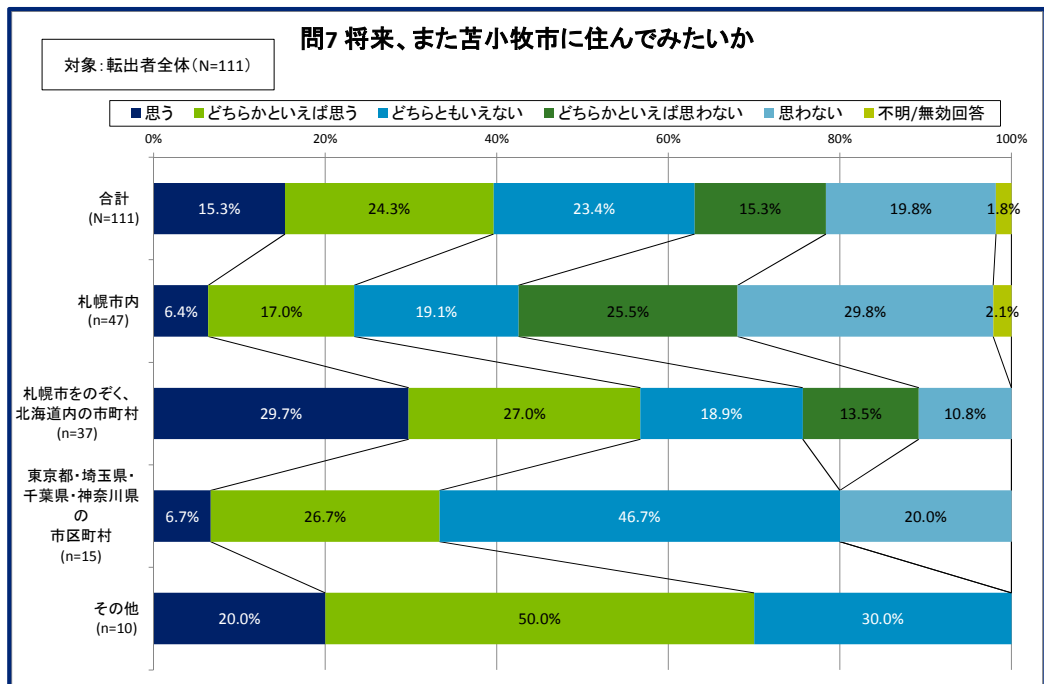
(キ) 苫小牧市への再転入意向

① 苫小牧市への再転入意向

- 苫小牧市に将来再度住んでみたいと答えた回答者は「思う」（15.3%）、「どちらかといえば思う」（24.3%）を合わせ、39.6%となっている。
- 一方、再度住んでみたくないと答えた回答者は「どちらかといえば思わない」（15.3%）、「思わない」（19.8%）を合わせて、35.1%となっている。

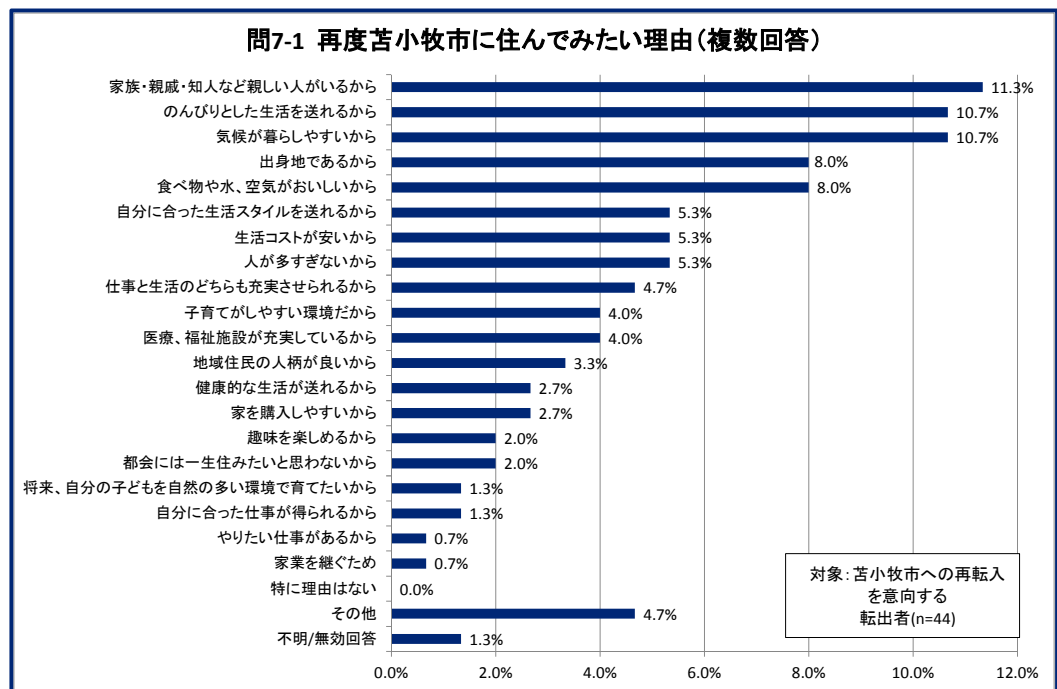


- また将来の苫小牧市への居住意向を転出先別に見ると、「札幌市をのぞく、北海道内の市町村」に転出した人は、また苫小牧に住んでみたいと思う傾向が高い。



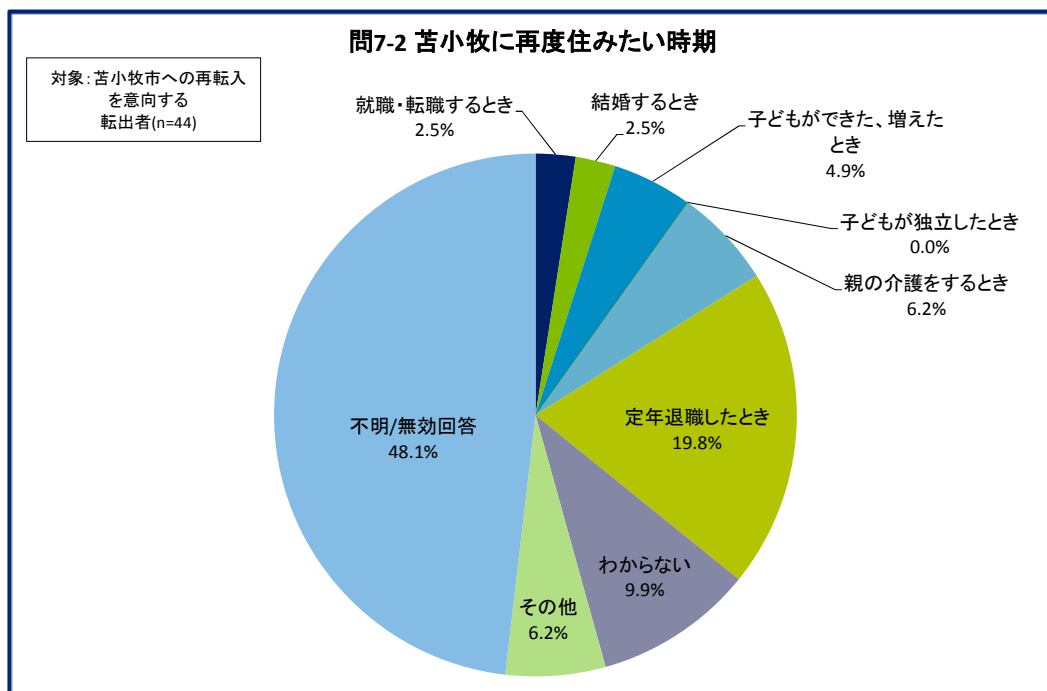
② 再度苫小牧市に住んでみたい理由(問7-1)

- 苫小牧市への再転入を意向する転出者に理由をきくと、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから」(11.3%)、「のんびりとした生活を送れるから」(10.7%)、「気候が暮らしやすいから」(10.7%)が順に多くなっている。



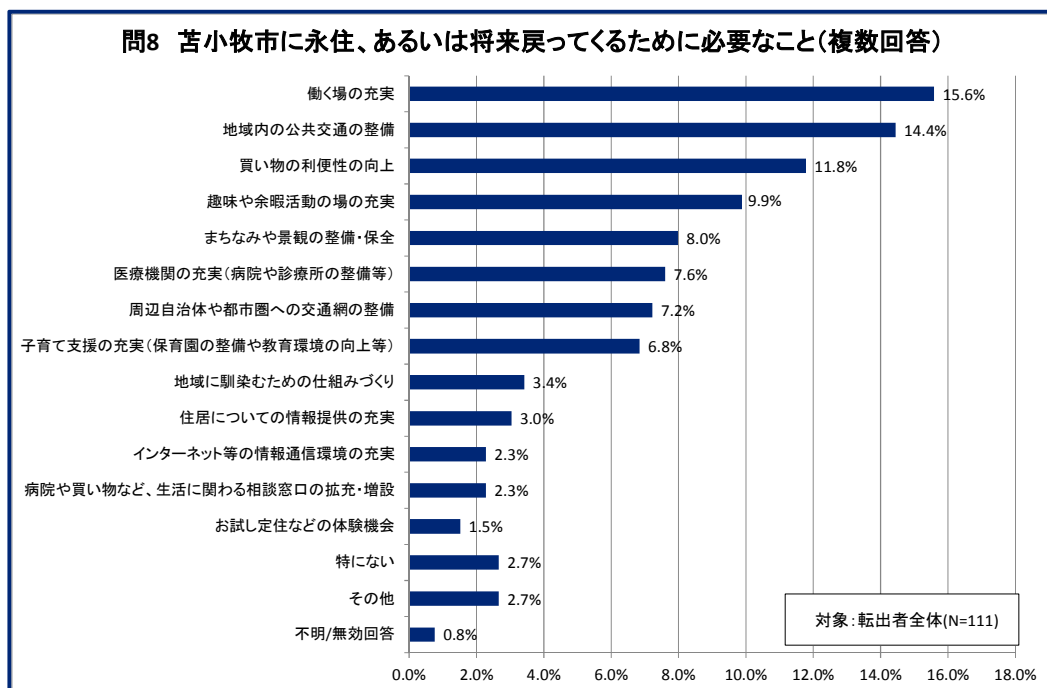
③ 苫小牧市に再度住みたい時期(問7-2)

- 苫小牧市に再度住みたい時期をきくと、「定年退職したとき」(19.8%)がもっとも多く、「親の介護をするとき」(6.2%)が続いている。



(ク) 苫小牧市に永住、あるいは将来戻ってくるために必要なこと (問 8)

- 苫小牧市に永住、あるいは将来戻ってくるために必要なこととしては、「働く場の充実」(15.6%)、「地域内の公共交通の整備」(14.4%)、「買い物の利便性の向上」(11.8%)が多く挙げられている。



(ケ) 将来の本市のイメージ (問 9)

- 苫小牧市に永住、あるいは将来戻ってくることを検討するために、充実させるべ

き職業・職種の雇用としては、「医療、保健、福祉関係」(16.2%)がもっとも多く、「製造業(工業)関係」(10.8%)が続いている。

